



2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

滋賀県

景況調査結果報告書

2019年度第2四半期
(2019年7～9月)

目次

I.調査結果.....	2
II.今期の状況.....	3
III.規模別・業種別.....	8
IV.回答企業のコメント.....	22

滋賀県商工観光労働部商工政策課

I. 調査結果



【調査概要】

滋賀県では、四半期毎に県内の景気動向の把握を目的として景況調査を実施しております。今期(2019年7～9月期)の調査結果の概要は次のとおりです。

また、滋賀県景況調査報告書については、滋賀県公式ホームページをご覧ください。

<https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/shigotosangyou/syougyou/300168.html>

今期の県内企業の景況は、業況、生産、売上、経常利益の各DI全てにおいてマイナス幅が拡大した。雇用の水準DIマイナス幅が縮小し、不足感が弱まった。

来期(2019年10～12月期)の見通しについては、業況、生産、売上、経常利益の各DI全てにおいてマイナス幅が拡大する見通し。雇用の水準DIについてはマイナス幅が拡大し、不足感が強まる見通し。

【調査方法】

①調査期間………2019年9月

②調査企業数………県内の事業所(750社)

③調査方法………郵送アンケート

④回答企業数……371社(回答率49.5%)

(社)

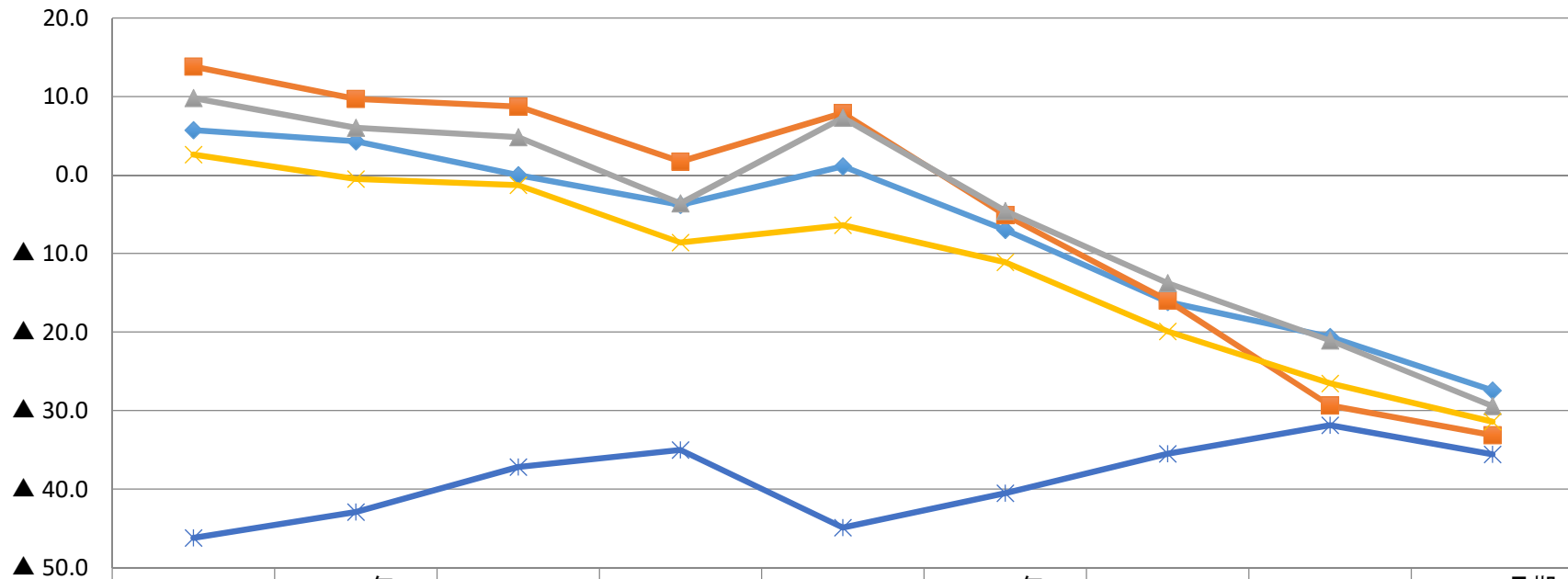
	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	合計
大企業	32	1	0	5	13	51
中小企業	152	41	17	24	86	320
合計	184	42	17	29	99	371
産業別比率	49.6%	11.3%	4.6%	7.8%	26.7%	

※本調査でのDI(ディフュージョン・インデックス):「増加(好転・上昇・過剰等)」と回答した事業所数の構成比から、「減少(悪化・低下・不足等)」と回答した事業所数の構成比を差し引いた値。

今期(実績)の業況、生産、売上、経常利益、在庫数量の各DIは前年同期と比較。資金繰りDIは3か月前と比較。採算の水準、引合、雇用の水準の各DIは今期水準の軸を用いて算出。

来期の見通しについては、業況、生産、売上、経常利益、在庫数量の各DIは3か月後の前年同期と比較。資金繰りDIは3か月後水準の軸を用いて算出。採算の水準、引合、雇用の水準DIは3か月後水準の軸を用いて算出。

Ⅱ.各種DIの動き(実績)と来期の見通し



	10-12月期	2018年 1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	2019年 1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期 (見通し)
◆ 業況	5.7	4.3	0.0	▲ 3.8	1.1	▲ 7.0	▲ 16.2	▲ 20.6	▲ 27.5
■ 生産	13.8	9.7	8.7	1.7	7.9	▲ 5.1	▲ 16.0	▲ 29.3	▲ 33.1
▲ 売上	9.8	6.0	4.8	▲ 3.6	7.3	▲ 4.6	▲ 13.8	▲ 21.1	▲ 29.4
✕ 経常利益	2.6	▲ 0.5	▲ 1.3	▲ 8.6	▲ 6.4	▲ 11.1	▲ 19.9	▲ 26.5	▲ 31.4
✧ 雇用の水準	▲ 46.2	▲ 42.9	▲ 37.2	▲ 35.0	▲ 44.9	▲ 40.5	▲ 35.5	▲ 31.9	▲ 35.6

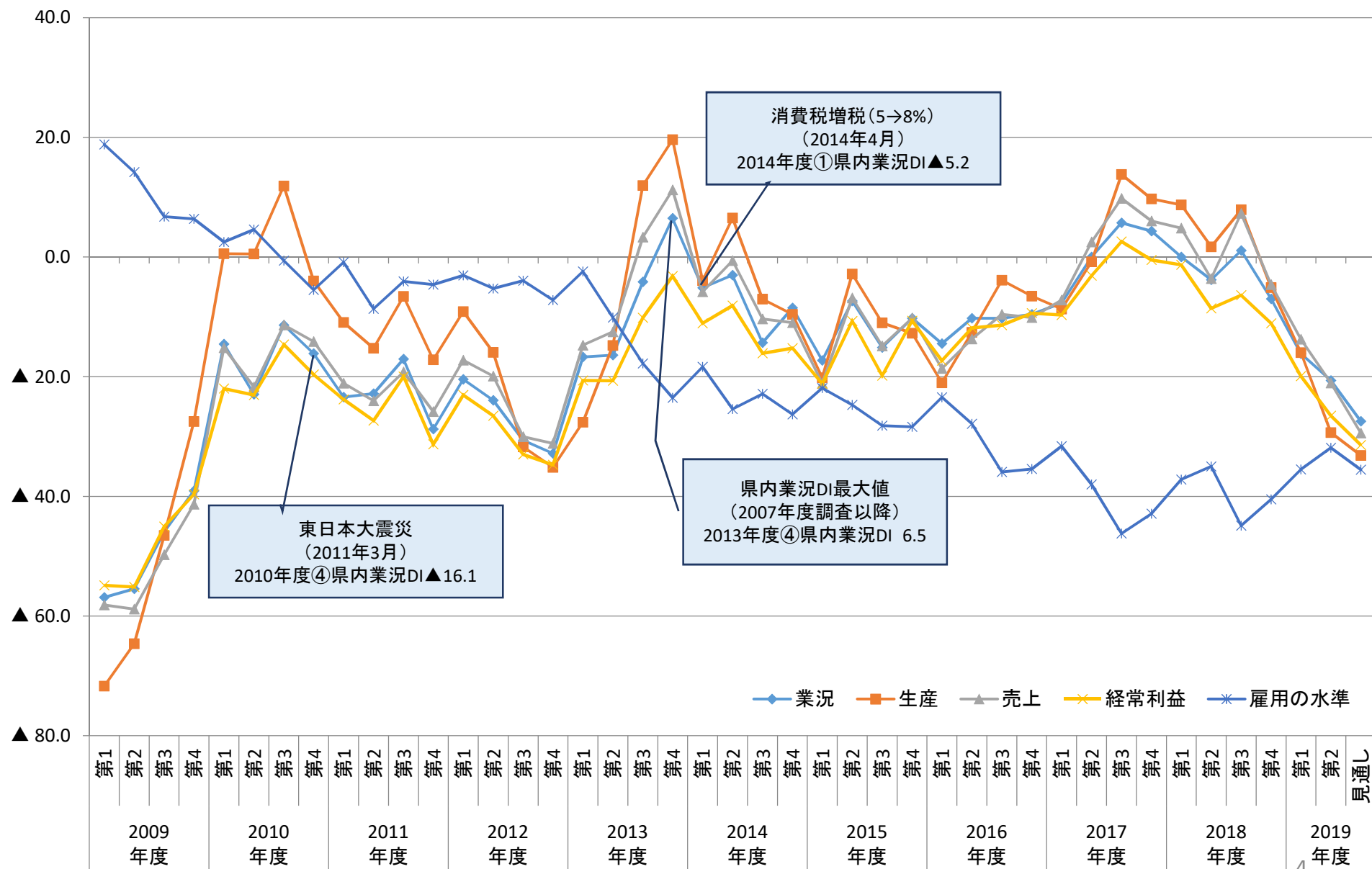
今期(2019年7~9月期)の県内企業の景況(前期(2019年4~6月期)との比較)

- ・業況、生産、売上、経常利益の各DI: マイナス幅が拡大した。
- ・雇用の水準DI: マイナス幅が縮小し、不足感が弱まった。

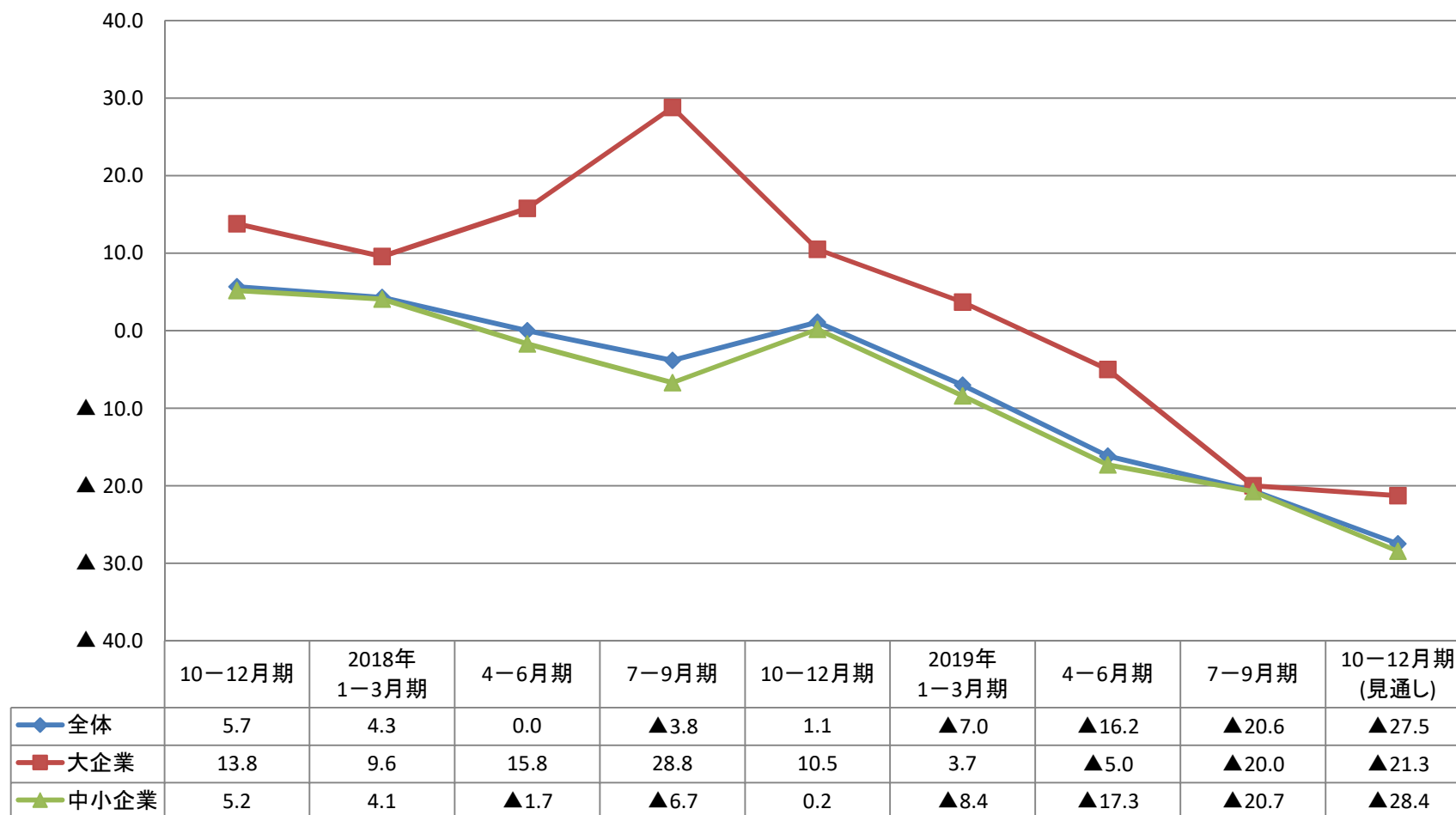
来期(2019年10~12月期)の見通し

- ・業況、生産、売上、経常利益の各DI: マイナス幅が拡大する見通し。
- ・雇用の水準DI: マイナス幅が拡大し、不足感が強まる見通し。

Ⅱ .DIの推移：2009年度第1四半期～2019年度第2四半期

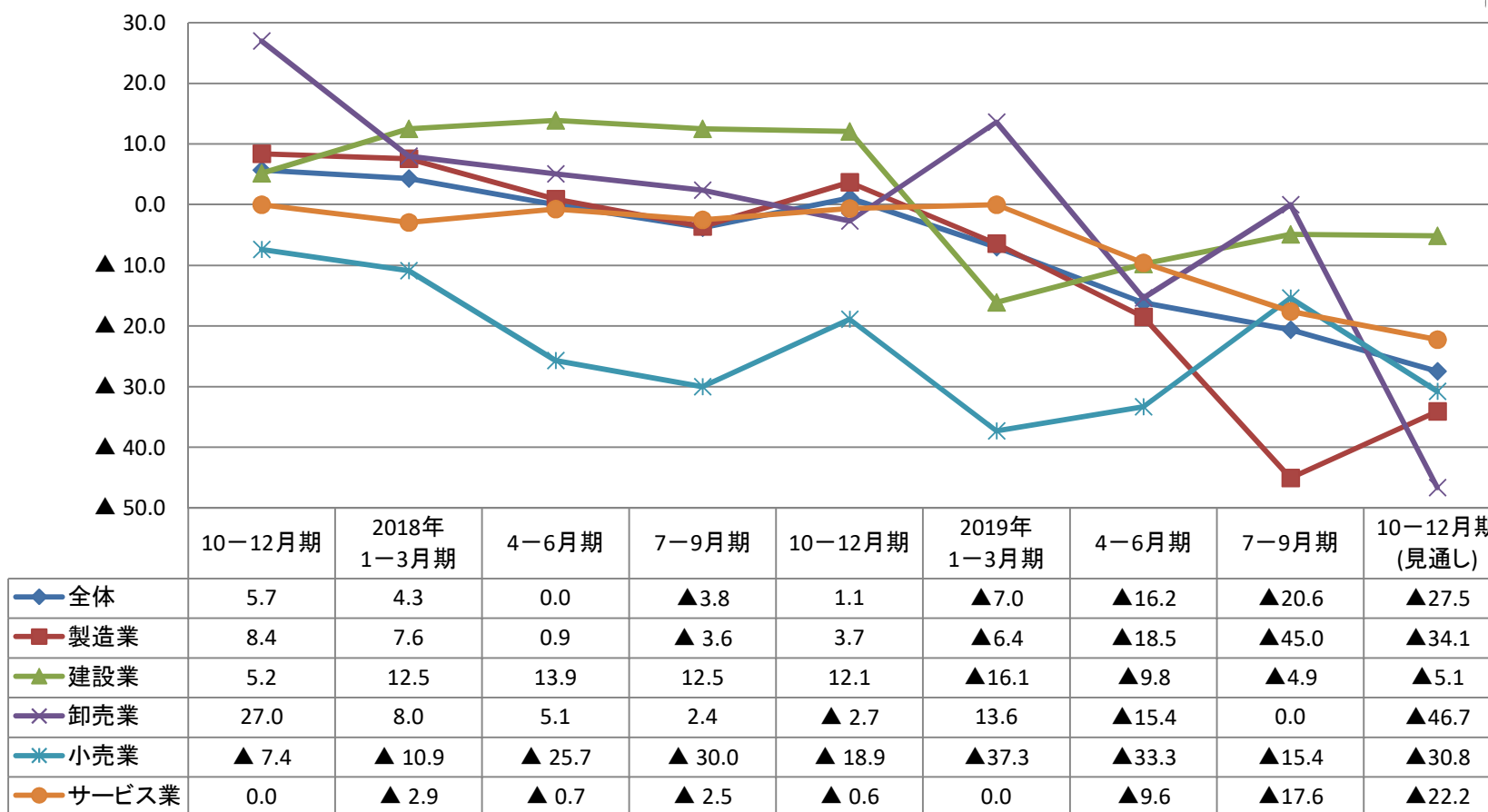


Ⅱ. 企業規模別業況の動き(実績)と来期の見通し



- ・全体の業況DIは前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・大企業の業況DIは前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・中小企業の業況DIは前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。

Ⅱ.業種別業況の動き(実績)と来期の見通し



- ・製造業の業況DIは前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は今期に比べマイナス幅が縮小する見通し。
- ・建設業の業況DIは前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・卸売業の業況DIは前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・小売業の業況DIは前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・サービス業の業況DIは前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。

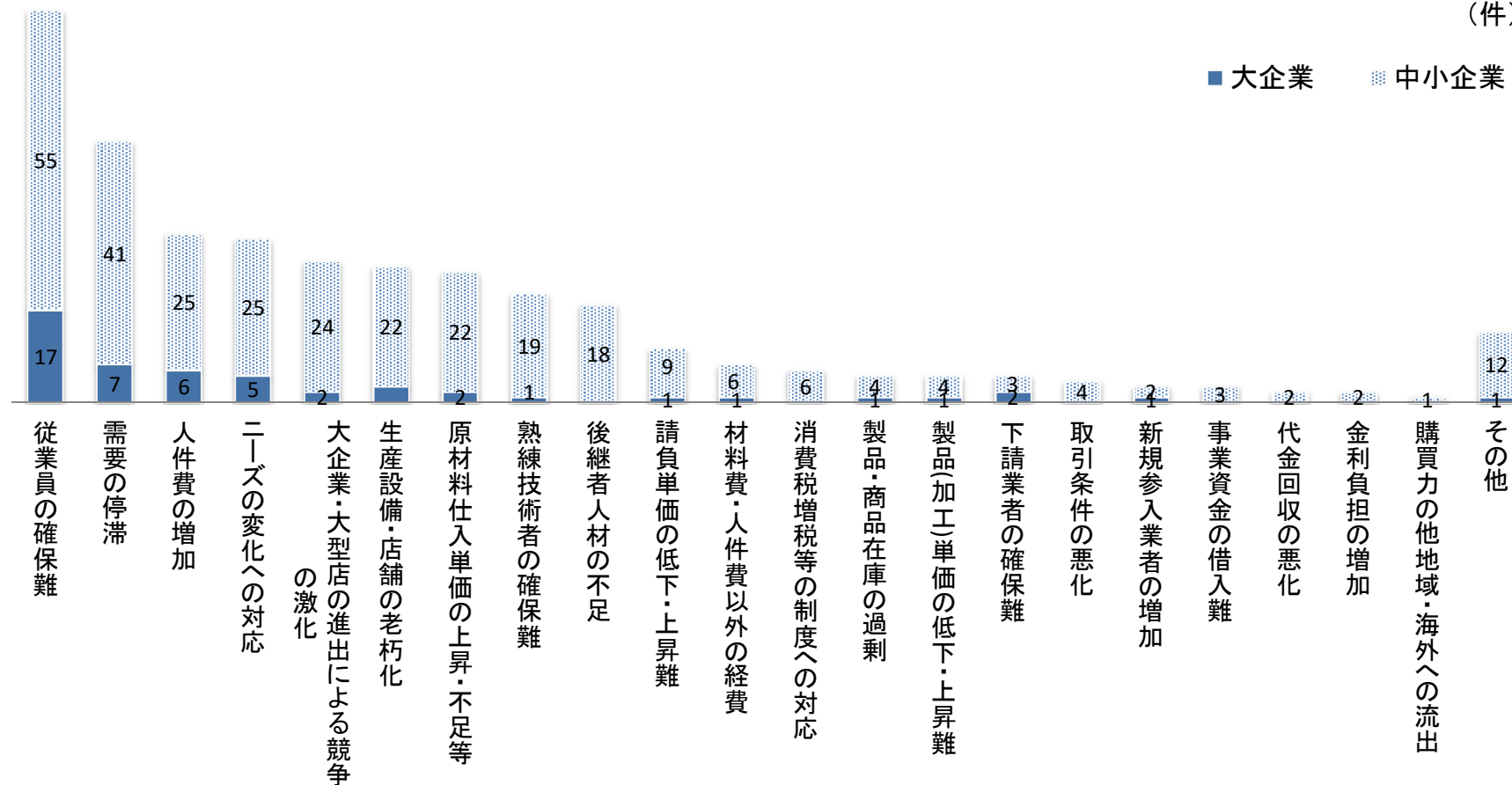
Ⅱ.経営上の問題点



滋賀県

回答企業数360社
(件)

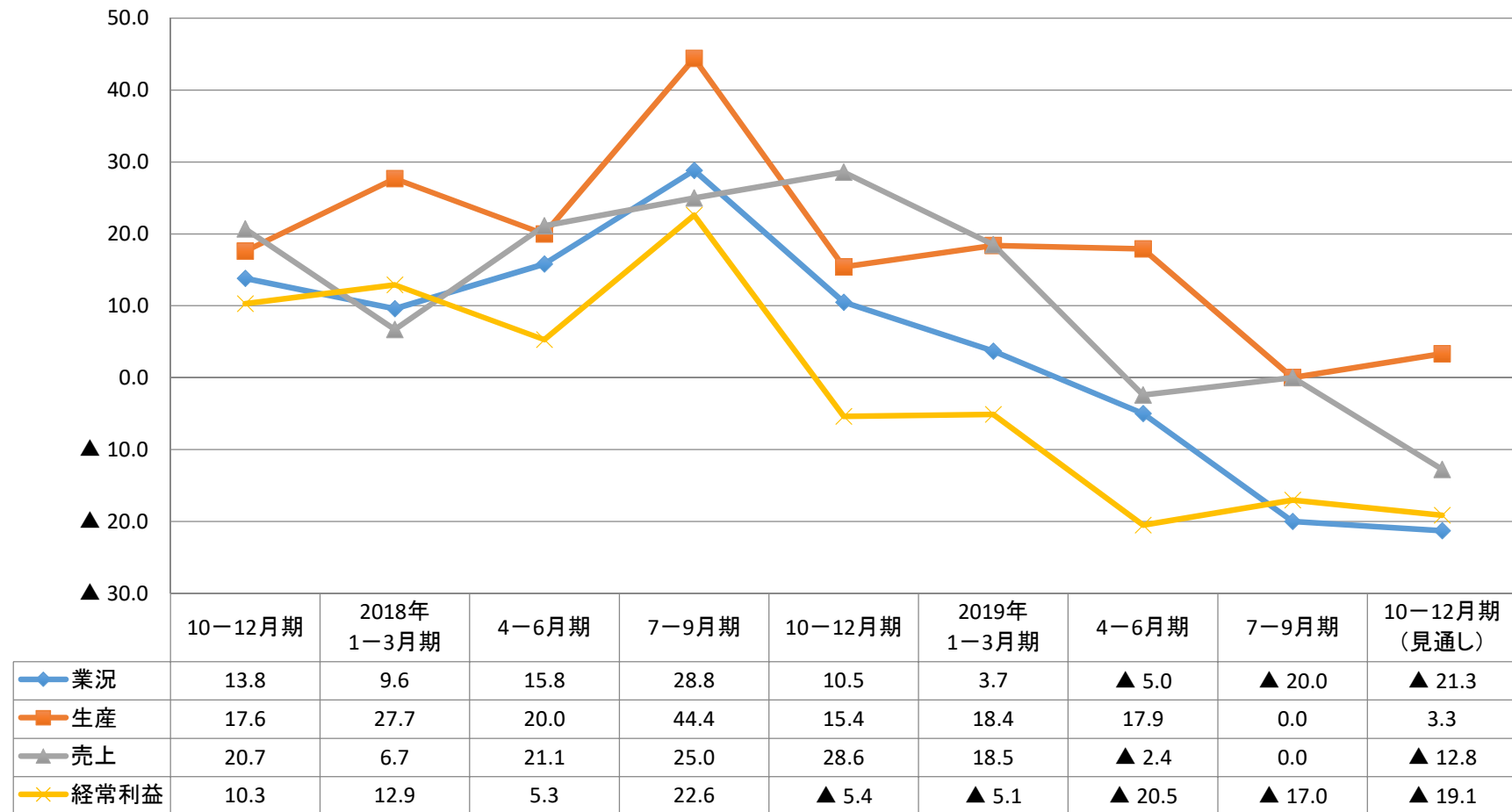
■ 大企業 ■ 中小企業



- ・全体:「従業員の確保難」が最多となっており、「需要の停滞」「人件費の増加」の順となっている。
- ・大企業:「従業員の確保難」が最多となっており、「需要の停滞」「人件費の増加」の順となっている。
- ・中小企業:「従業員の確保難」が最多となっており、「需要の停滞」「人件費の増加」「ニーズの変化への対応」の順となっている。

Ⅲ.【大企業】①

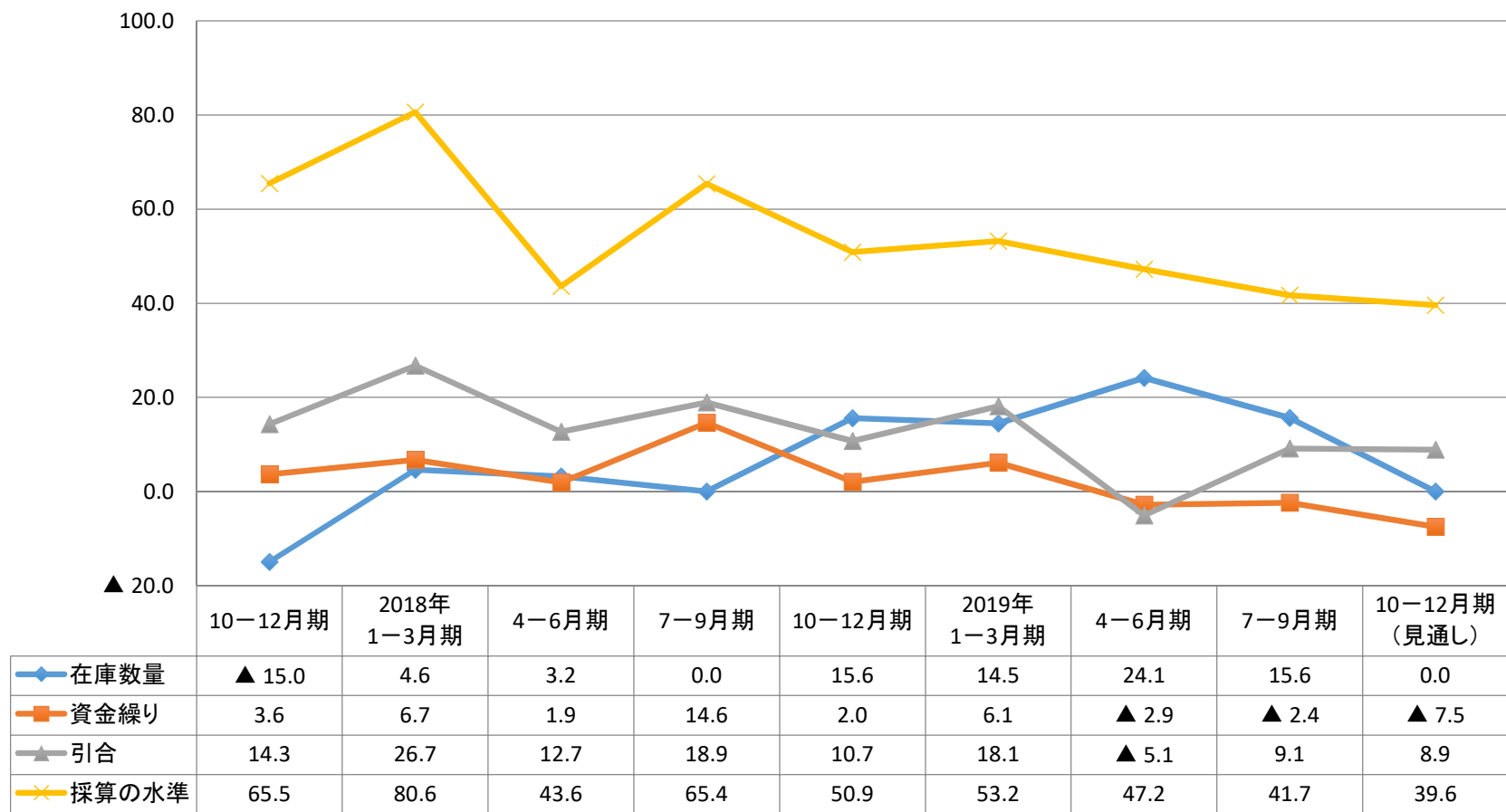
業況・生産・売上・経常利益の動き(実績)と来期の見通し



- ・業況DIは▲20.0と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲21.3と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・生産DIは0.0と、前期に比べプラス幅が縮小した。来期は3.3と、今期に比べプラス幅が拡大する見通し。
- ・売上DIは0.0と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲12.8と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・経常利益DIは▲17.0と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲19.1と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。

Ⅲ.【大企業】②

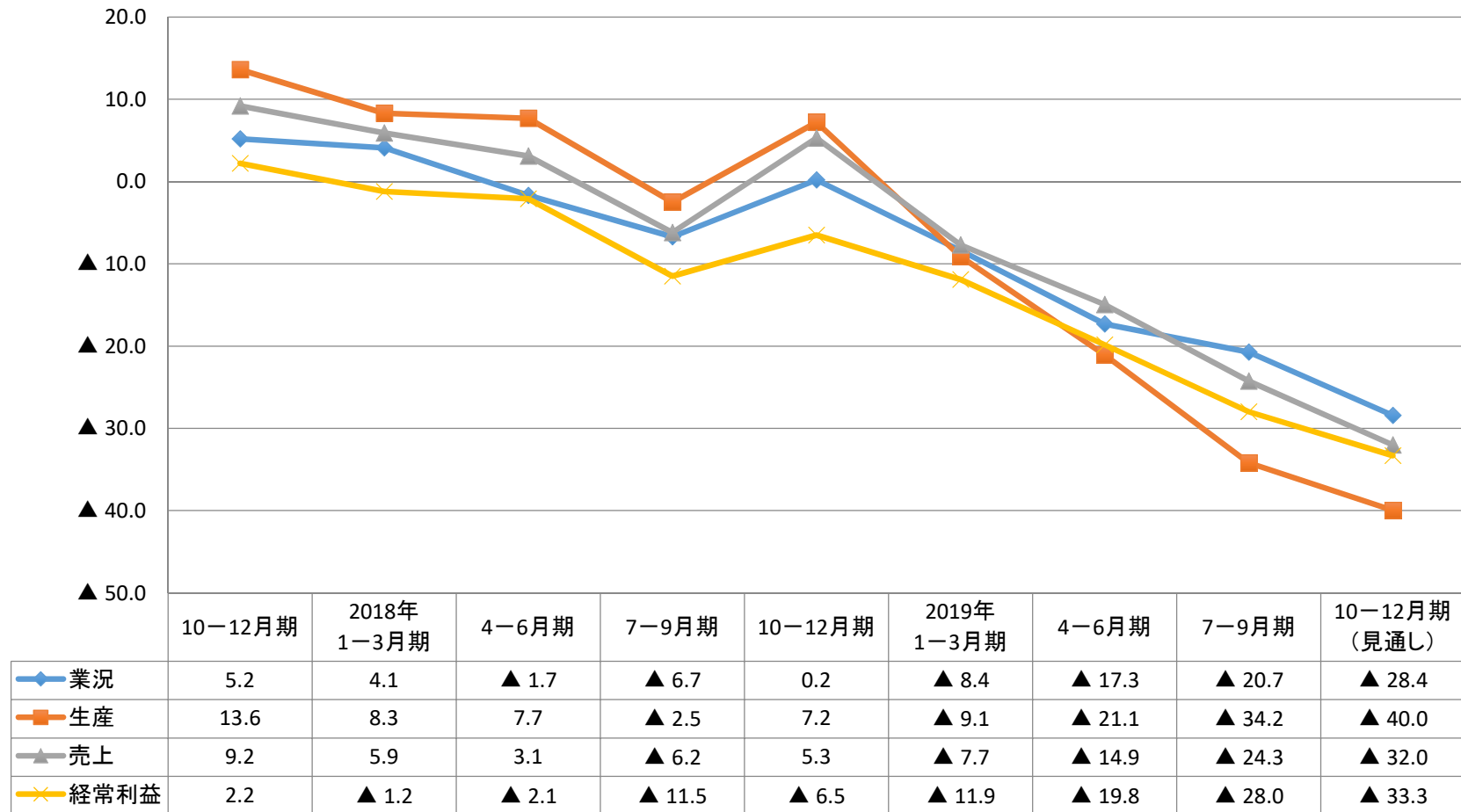
在庫数量・資金繰り・引合・採算の水準の動き(実績)と来期の見通し



- ・在庫数量DIは15.6と、前期に比べプラス幅が縮小した。来期は0.0と、今期に比べプラス幅が縮小する見通し。
- ・資金繰りDIは▲2.4と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲7.5と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・引合DIは9.1と、前期に比べマイナスからプラスに転じた。来期は8.9と、今期に比べプラス幅が縮小する見通し。
- ・採算の水準DIは41.7と、前期に比べプラス幅が縮小した。来期は39.6と、今期に比べプラス幅が縮小する見通し。

Ⅲ.【中小企業】①

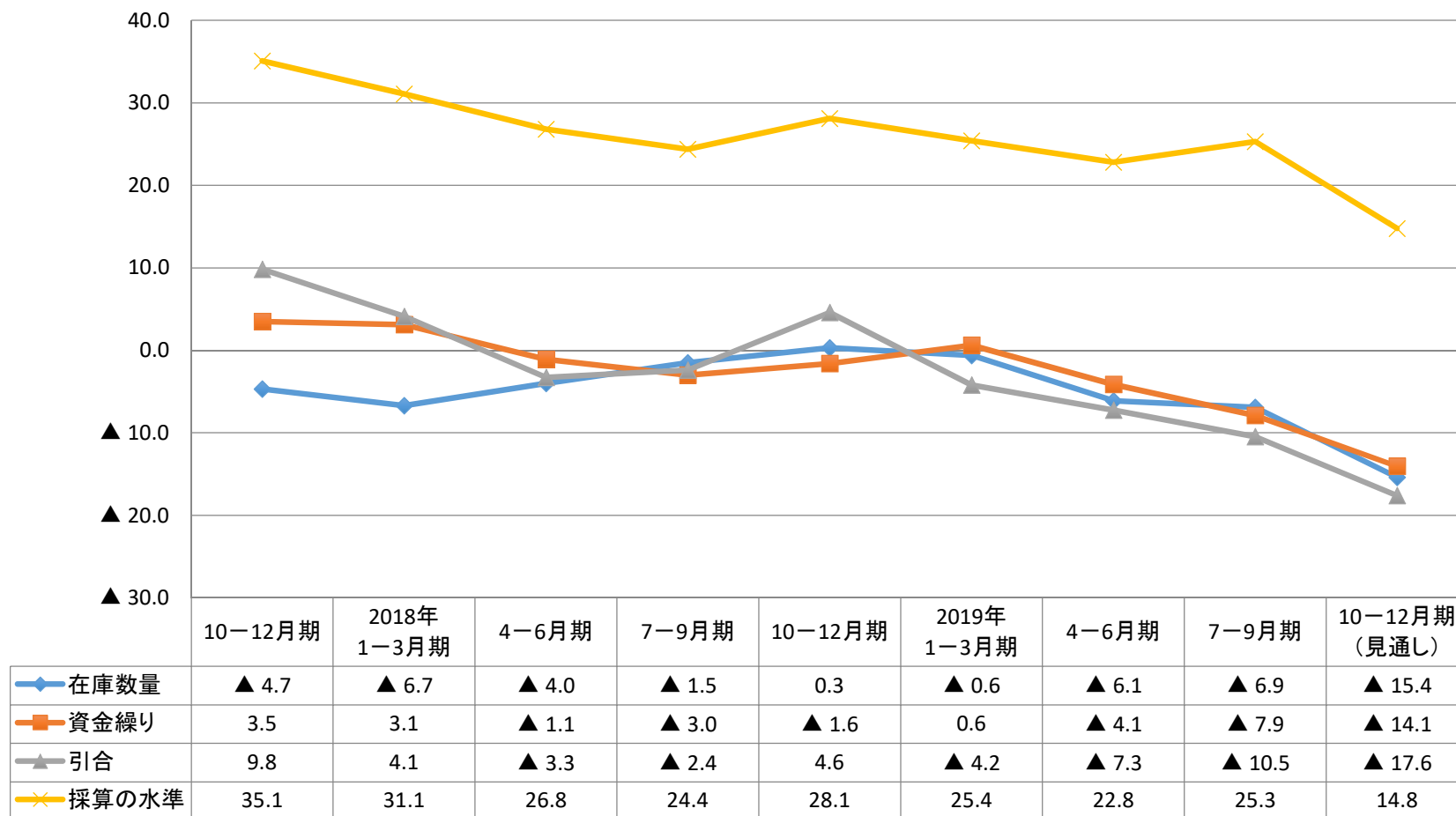
業況・生産・売上・経常利益の動き(実績)と来期の見通し



- ・業況DIは▲20.7と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲28.4と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・生産DIは▲34.2と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲40.0と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・売上DIは▲24.3と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲32.0と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・経常利益DIは▲28.0と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲33.3と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。

Ⅲ.【中小企業】②

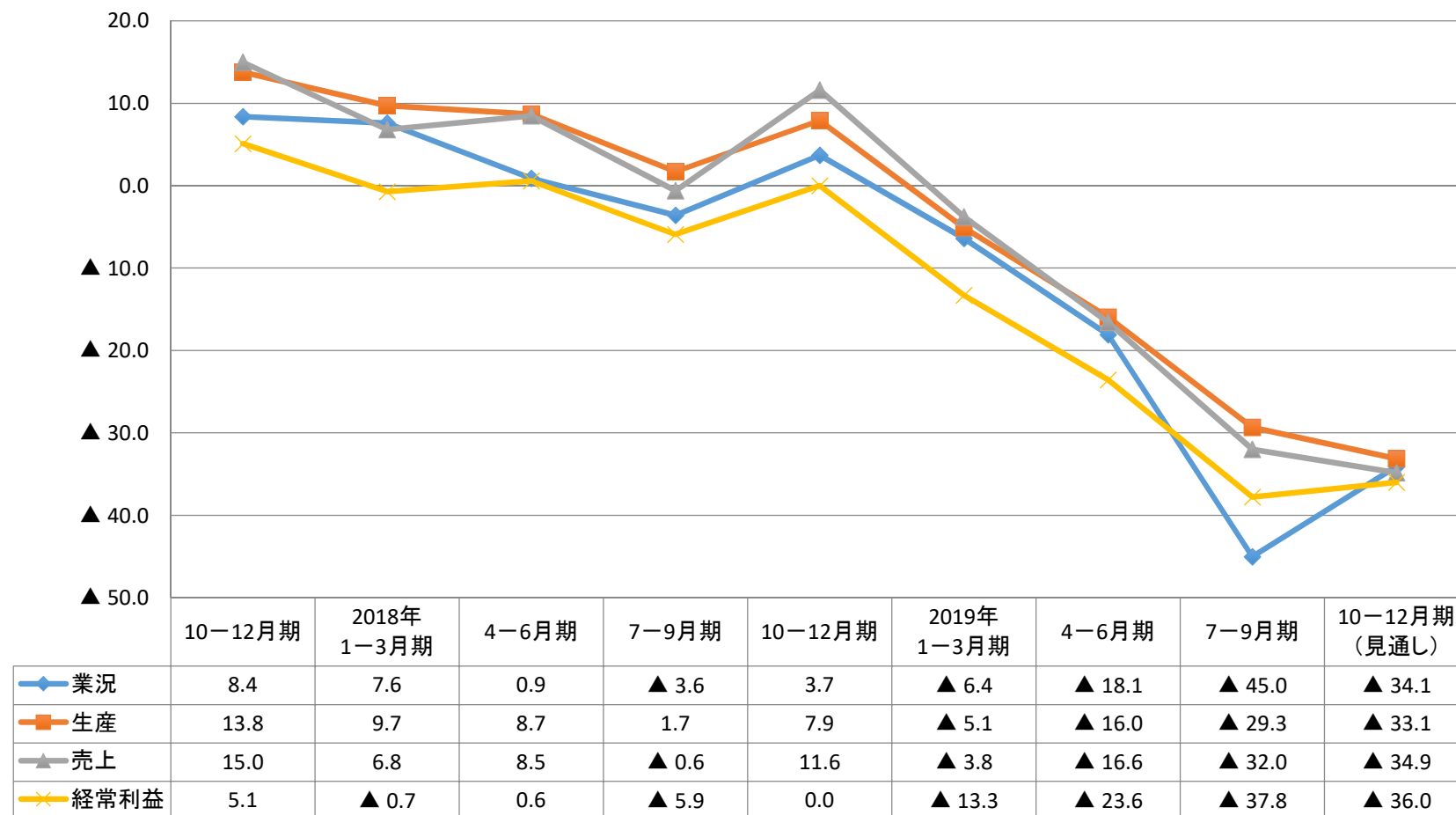
在庫数量・資金繰り・引合・採算の水準の動き(実績)と来期の見通し



- ・在庫数量DIは▲6.9と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲15.4と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・資金繰りDIは▲7.9と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲14.1と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・引合DIは▲10.5と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲17.6と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・採算の水準DIは25.3と、前期に比べプラス幅が拡大した。来期は14.8と、今期に比べプラス幅が縮小する見通し。

Ⅲ.【製造業】①

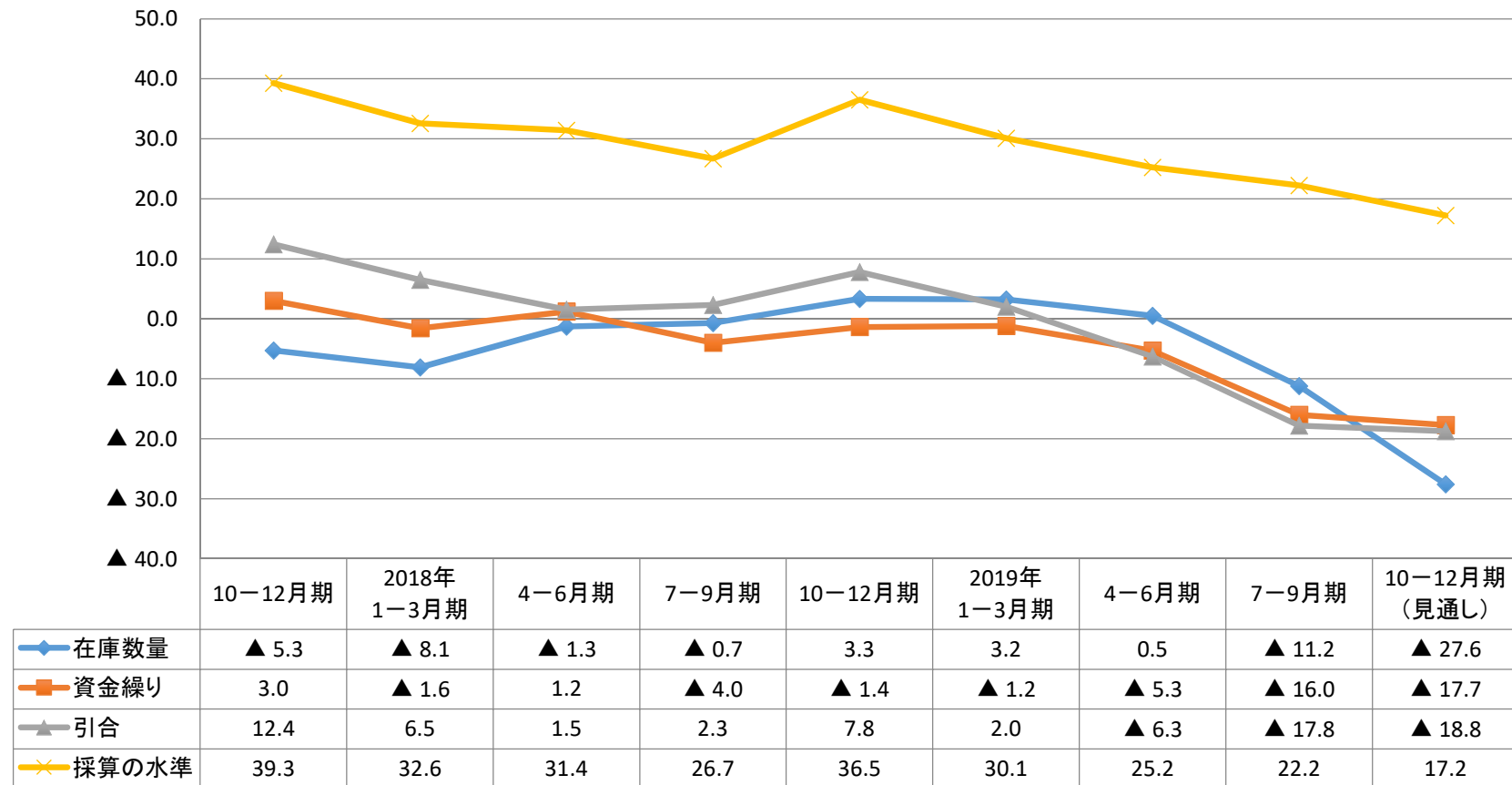
業況・生産・売上・経常利益の動き(実績)と来期の見通し



- ・業況DIは▲45.0と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲34.1と、今期に比べマイナス幅が縮小する見通し。
- ・生産DIは▲29.3と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲33.1と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・売上DIは▲32.0と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲34.9と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・経常利益DIは▲37.8と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲36.0と、今期に比べマイナス幅が縮小する見通し。

Ⅲ.【製造業】②

在庫数量・資金繰り・引合・採算の水準の動き(実績)と来期の見通し



- ・在庫数量DIは▲11.2と、前期に比べプラスからマイナスへ転じた。来期は▲27.6と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・資金繰りDIは▲16.0と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲17.7と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・引合DIは▲17.8と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲18.8と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・採算の水準DIは22.2と、前期に比べプラス幅が縮小した。来期は17.2と、今期に比べプラス幅が縮小する見通し。

Ⅲ.【建設業】①

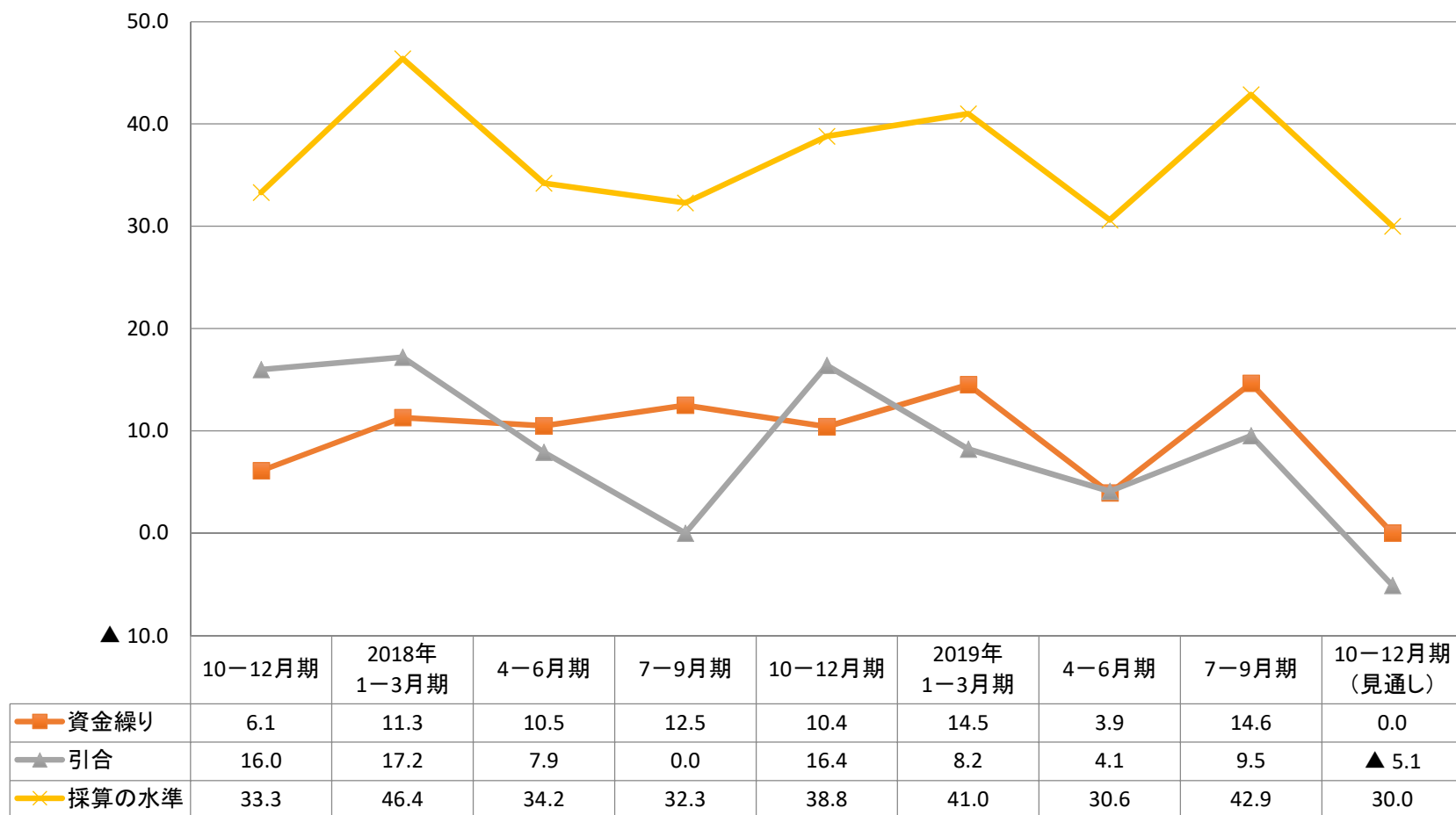
業況・売上・経常利益の動き(実績)と来期の見通し



- ・業況DIは▲4.9と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲5.1と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・売上DIは2.4と、前期に比べマイナスからプラスへ転じた。来期は▲10.3と、今期に比べプラスからマイナスへ転じる見通し。
- ・経常利益DIは▲9.8と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲20.5と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。

Ⅲ.【建設業】②

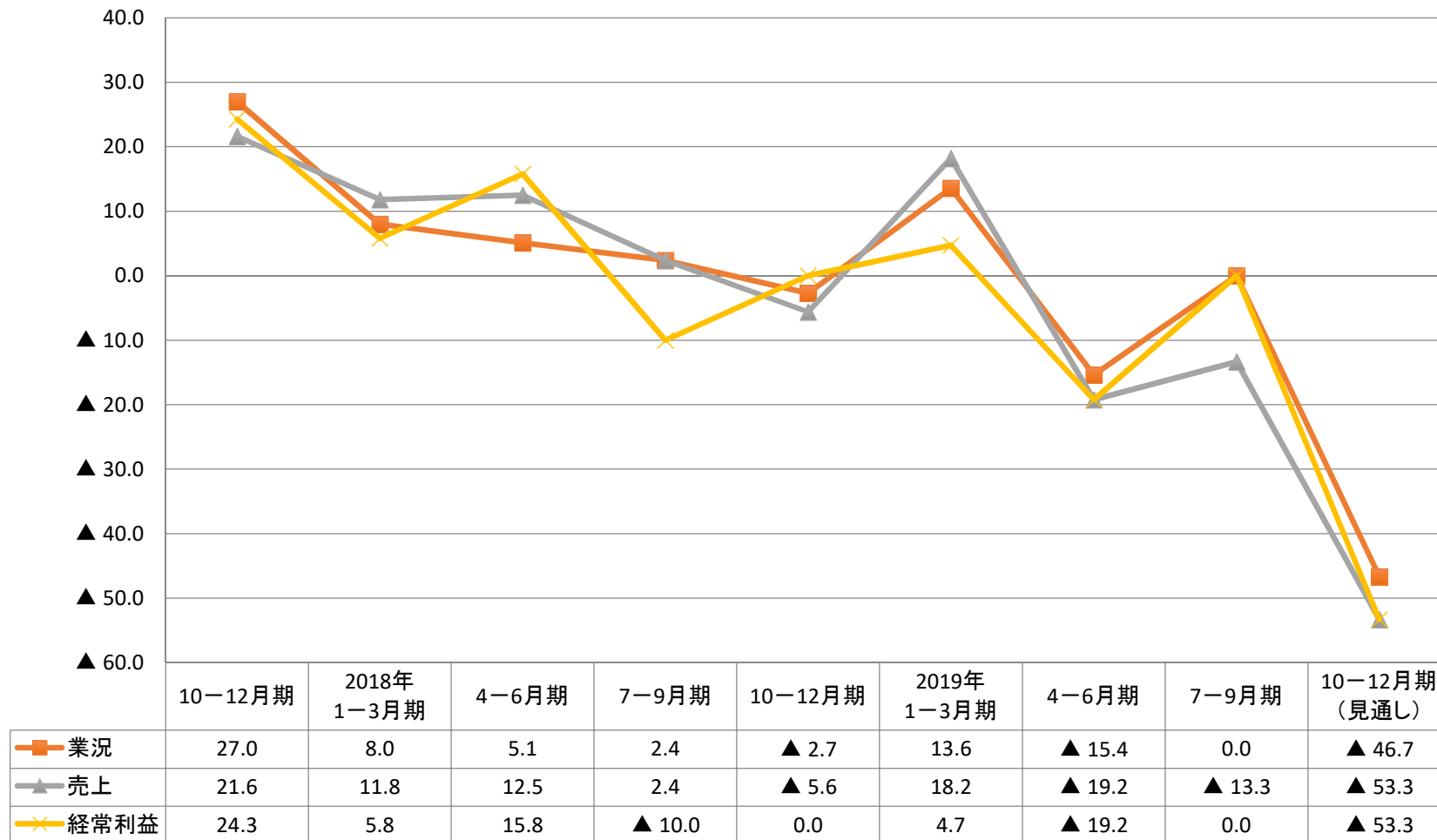
資金繰り・引合・採算の水準の動き(実績)と来期の見通し



- ・資金繰りDIは14.6と、前期に比べプラス幅が拡大した。来期は0.0と、今期に比べプラス幅が縮小する見通し。
- ・引合DIは9.5と、前期に比べプラス幅が拡大した。来期は▲5.1と、今期に比べプラスからマイナスへ転じる見通し。
- ・採算の水準DIは42.9と、前期に比べプラス幅が拡大した。来期は30.0と、今期に比べプラス幅が縮小する見通し。

Ⅲ.【卸売業】①

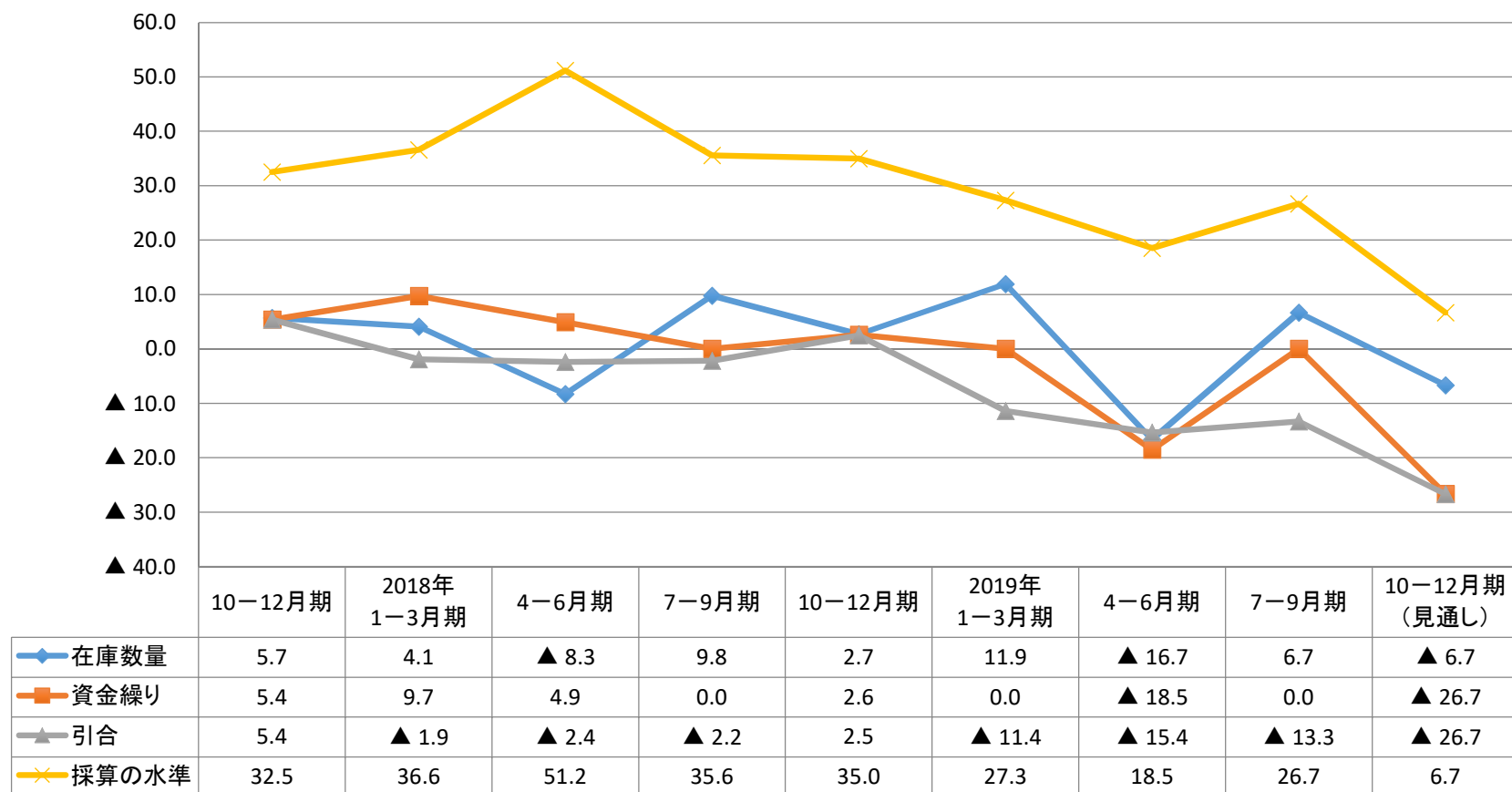
業況・売上・経常利益の動き(実績)と来期の見通し



- ・業況DIは0.0と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲46.7と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・売上DIは▲13.3と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲53.3と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・経常利益DIは0.0と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲53.3と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。

Ⅲ.【卸売業】②

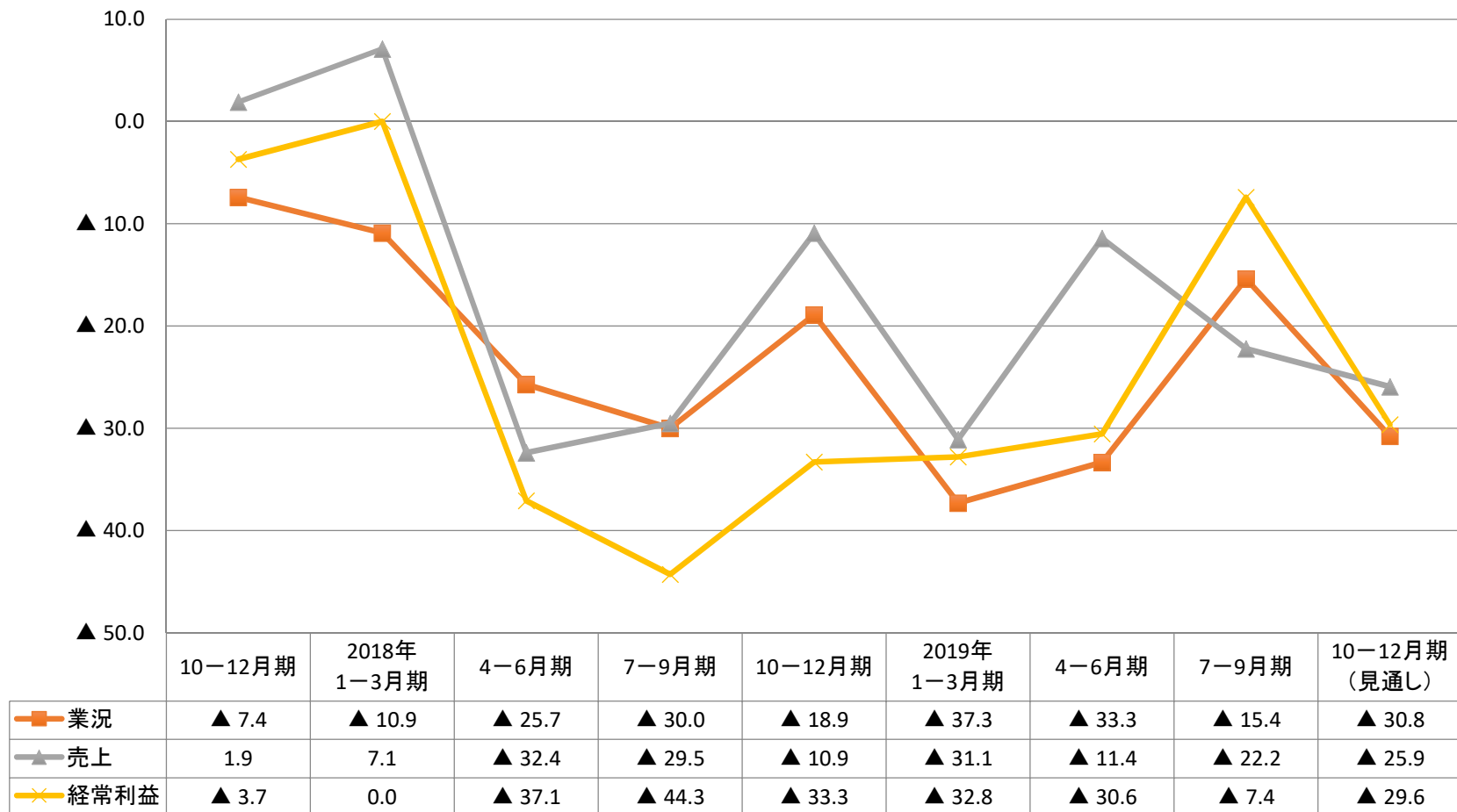
在庫数量・資金繰り・引合・採算の水準の動き(実績)と来期の見通し



- ・在庫数量DIは6.7と、前期に比べマイナスからプラスに転じた。来期は▲6.7と、今期に比べプラスからマイナスに転じる見通し。
- ・資金繰りDIは0.0と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲26.7と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・引合DIは▲13.3と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲26.7と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・採算の水準DIは26.7と、前期に比べプラス幅が拡大した。来期は6.7と、今期に比べプラス幅が縮小する見通し。

Ⅲ.【小売業】①

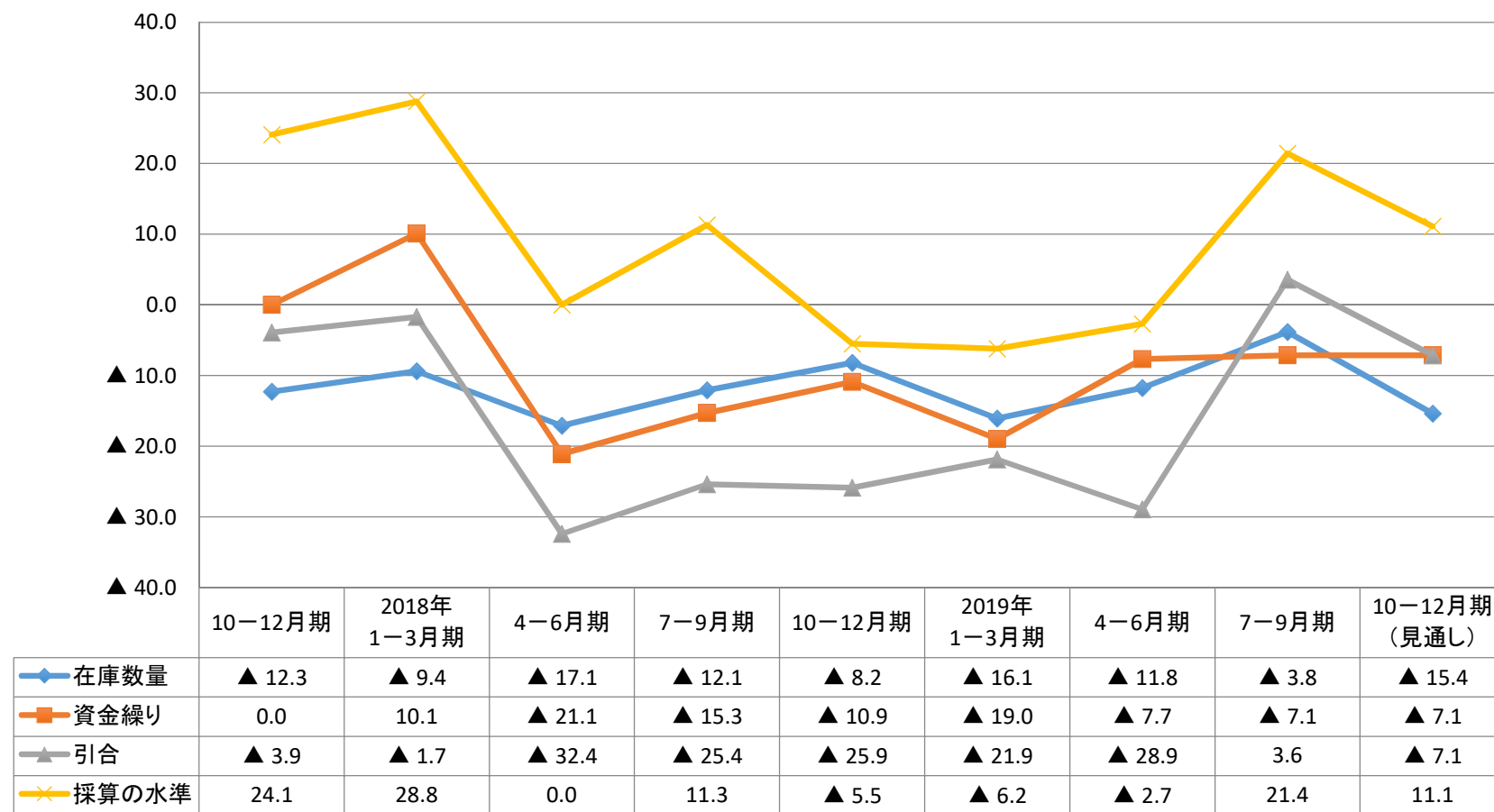
業況・売上・経常利益の動き(実績)と来期の見通し



- ・業況DIは▲15.4と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲30.8と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・売上DIは▲22.2と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲25.9と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・経常利益DIは▲7.4と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲29.6と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。

Ⅲ.【小売業】②

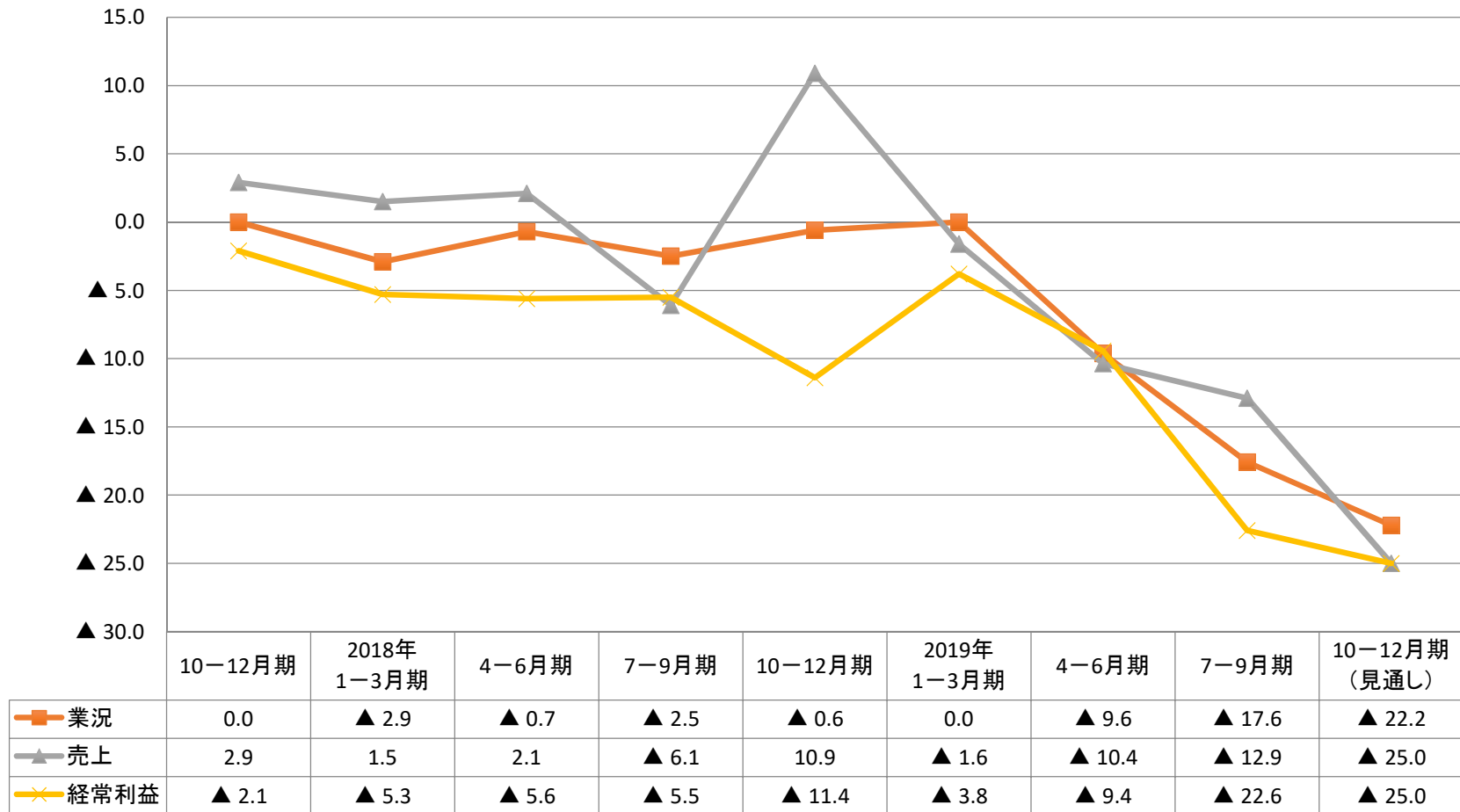
在庫数量・資金繰り・引合・採算の水準の動き(実績)と来期の見通し



- ・在庫数量DIは▲3.8と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲15.4と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・資金繰りDIは▲7.1と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲7.1と、今期と変わらない見通し。
- ・引合DIは3.6と、前期に比べマイナスからプラスへ転じた。来期は▲7.1と、今期に比べプラスからマイナスへ転じる見通し。
- ・採算の水準DIは21.4と、前期に比べマイナスからプラスへ転じた。来期は11.1と、今期に比べプラス幅が縮小する見通し。

Ⅲ.【サービス業】①

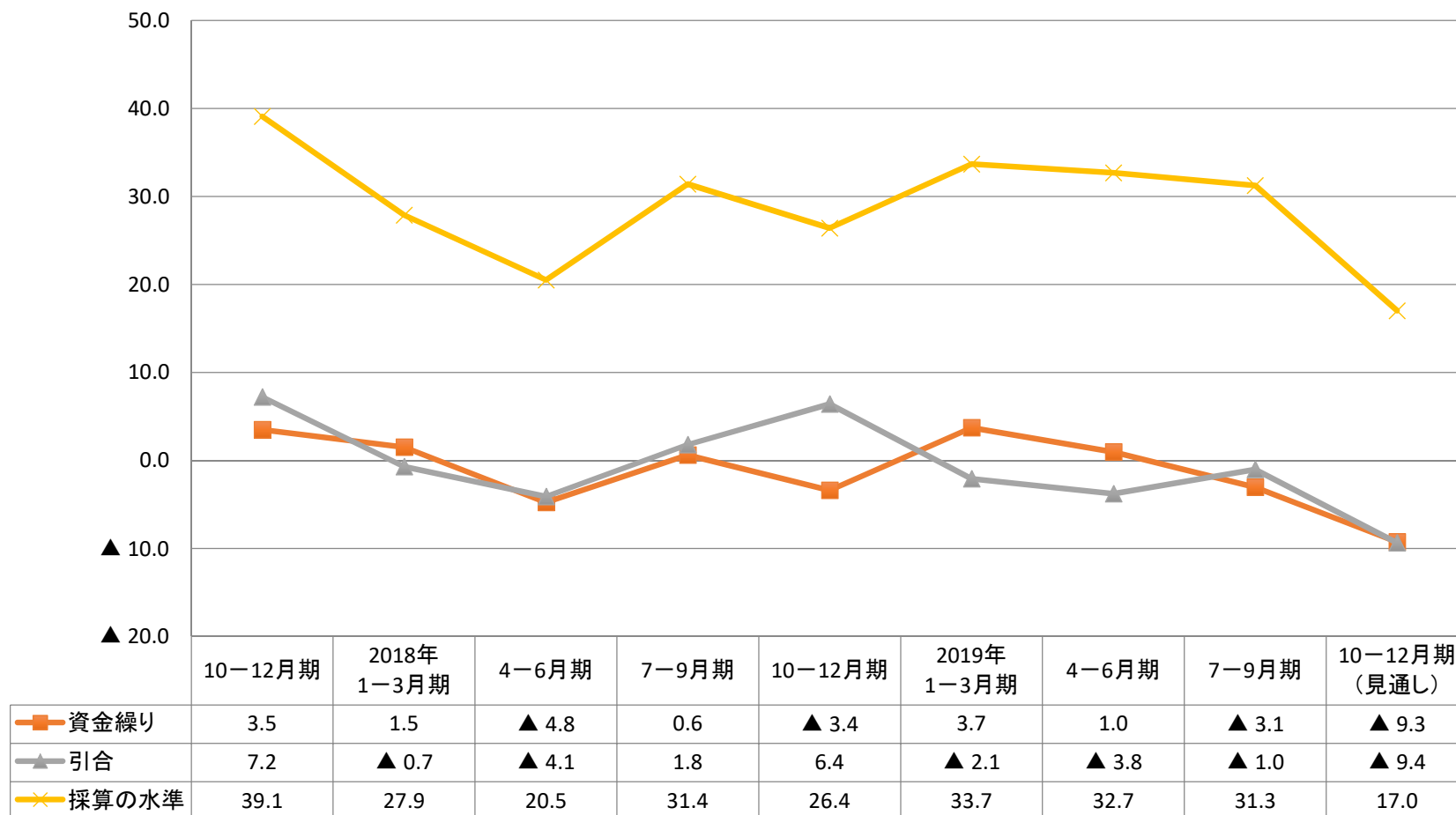
業況・売上・経常利益の動き(実績)と来期の見通し



- ・業況DIは▲17.6と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲22.2と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・売上DIは▲12.9と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲25.0と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・経常利益DIは▲22.6と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲25.0と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。

Ⅲ.【サービス業】②

資金繰り・引合・採算の水準の動き(実績)と来期の見通し



- ・資金繰りDIは▲3.1と、前期に比べプラスからマイナスへ転じた。来期は▲9.3と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・引合DIは▲1.0と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲9.4と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・採算の水準DIは31.3と、前期に比べプラス幅が縮小した。来期は17.0と、今期に比べプラス幅が縮小する見通し。

IV.回答企業のコメント



【プラスの判断をした企業】

- ・ 好調な事業と調整局面の事業に分かれている。（電子部品製造業）
- ・ 社内製造は変わらないが、外注に出しているものが多くなってきている。（出版・印刷関連業）
- ・ 消費税増税前の駆け込み需要。10月以降の落ち込む見込み。（住宅設備機器卸売業）

【マイナスの判断をした企業】

- ・ 中国の景気悪化により、減収減益の見込みで先行きも不透明。（金属加工製造業）
- ・ 米中貿易摩擦が影響しているらしく、受注が先延ばしになっている。（機械器具製造業）
- ・ 増税に備え、すでに支出を抑えていると思える。（娯楽サービス業）
- ・ 半導体市場の減速（パルプ・紙・紙加工品製造業）

【その他】

- ・ 海外の貿易摩擦の影響を受け、受注減少。（金属加工製造業）
- ・ 需要の減少。（服飾卸売業）
- ・ 10月1日からの消費税増税に伴い、今後は悪化すると思われる。（貨物運送業）
- ・ 消費税増税の影響が不安。（燃料小売業）